

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム すまいる

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200111		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎鎌ヶ崎第9地割39番地34		
自己評価作成日	令和2年8月 日	評価結果市町村受理日	令和2年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆとりのある生活を送っていただくため、“こうあるべき”という職員の想いより、認知症の入居者様を主体とした、安全・安心な暮らしを大切にしています。
ADLが低下し介護度が重度化しても介護技術をフルに活かし、ご本人様・ご家族様の希望に沿ってサービスを継続できます。
地域行事には積極的に参加し、住人の皆様と顔なじみの関係になっております。また、年に2〜3回ほど認知症サポーター養成講座の講義依頼を受け、実施することで、市役所をはじめ、自治会や小学校とも交流している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の名称「すまいる」を象徴する理念である「共に生き共に笑い…」を常々意識し、利用者の笑顔を糧に、管理者・職員全員が利用者の状況を共有のうえ、職員の個人目標を確認しながら日々の介護支援に反映している。民謡教室、納涼祭や松あかし等地域の子ども達や住民と積極的に交流し、多様な季節行事を開催するなど地域のグループホームとして溶け込むとともに、利用者・家族ともに信頼関係醸成が見受けられる。隣接する同一法人である介護老人保健施設との機能連携のもと、感染症への対応をはじめ、文化祭出品参加などの利用者支援や地域との交流等、今後も医療法人としての特性やほほえみの里グループ力をも活かしたチームワーク支援が期待できる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人目標を上期・下期と設定。ホームの部署目標に沿ったものとし、理念に照らし合わせ取り組んでいる。	事業所「すまいる」の理念をもとに、ほほえみの里グループ方針の中から、職員個人ごとに部署目標に応じた個人目標を掲げ、その達成に向けた手段をワンペーパーで見える化している。管理者と職員が面談の場で丁寧に話し合い、モチベーション向上を図るとともに日々の利用者支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の菜園で、地域住民と交流している。また、地域の行事に参加したり、散歩・買い物にでかけ、知人などと会い、交流している。	例年は、子供会、民生委員、町内会やボランティアを通じて、事業所周辺の地域住民との交流を積極的に働きかけ、民謡教室、みずき団子づくりや節分、としなづくりなど、ホームの年間行事においても利用者と地域住民が一緒になって活動している。コロナ禍のため今年は全般的に自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老健での介護予防教室の参加者に向けて、認知症サポーター養成講座の講義依頼があり、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での活動や状況を報告し、助言頂き、取り入れている。ご家族様の参加も同じメンバーにならないよう声を掛けている。今後、他事業所と合同開催を検討中。	家族が毎回参加し、また職員も交互に記録者として加わり、職員全体の意識共有に配慮している。資料も写真やコメントをわかりやすく記載し、新型コロナウイルス対策の取り組みも明記している。料理の味付け等の委員からの意見も日々の支援に取り入れている。3月に予定していた元年度の第6回運営推進会議以降、コロナ禍のため、これまでのように開催出来ていない。	自治会の役員を委員に加えることにより、更なる地域交流を進め事業所への一層の理解を得て、地域住民からの長期にわたる安定した支援が確保されるようになることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で開催している認知症の勉強会に劇団として参加している。また集団指導にも出席。運営推進会議の調整等の連絡を電話または直接伺う。相談など必要に応じて連絡できている。	生活保護の申請時には市役所で担当者と面談し、市主催勉強会ばかりでなく、年2回の認知症の寸劇に管理者自ら「父親役」として参加している。年1、2回の市主催の集団指導や不定期だが地域のケア会議にも、それぞれ事前に業務調整を行いながら、積極的に参加するように努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修に参加している。毎年行われる研究発表でもスピーチロックを題材に取り組んだ。身体拘束はゼロだが、見えない拘束もゼロのケアを意識している。	平成30年にグループ内の老健施設と統一した指針を作成し、ほほえみの里QRコードでYouTubeを活用した身体拘束に関する研修に取り組んでいる。週1回のカンファレンスや2か月ごとの適正化委員会での振り返りに加え、特に最近では、スピーチロックについて利用者との言葉の遣り取り時の言いかえなど、意識的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的・心理的虐待等、勉強会をし、見直した。身体拘束適正化委員会を2か月に1度開催し、老健・他部署と話し合っている。入居者様が安全・安心な生活が出来るよう支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し、ホーム全職員に伝講した。改めて認知症高齢者の権利を守る関わり方を確認し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、あるいは入居時に十分な説明を行い、納得いただいている。ゆったりとした環境の中で、不安なことや相談にも乗っている。信頼して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望など申し送りノートにも記入・共有し、応えている。ご家族様も面会や受診対応時、ご意見やご要望を伺う機会があり、反映させている。	家族へのおたよりは、担当職員が手書きでコメントを記入し、全職員回覧・修正のうえ、月1回、写真入りで郵送している。「家族への支援のため」の意見をいただく旨を伝え、管理者自身も趣旨を職員と意識共有するよう努めている。申し送りノートで情報を共有しているほか、利用者や家族の思いを想定しながら業務改善を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、業務会議の中で意見交換している。また、いつでも申し送りノートで提案できる。	毎朝、勤務開始時に申し送りノートで職員からの日々の提案を共有しているほか、全員出勤としている月末開催の業務会議では、業務改善について話し合っている。また、個人面談では、個人目標の振り返りを行い、各自業務への自信・不安を確認し、業務調整に反映している。	

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個人目標をたて、皆で共有し協力しながら達成する事でやりがいにつながっている。個人面談をすることで進捗状況を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での対象者別に、適切な研修へ出席している。実践者研修にも対象者が参加した。介護福祉士受験者は法人内の介護トレーナーが勉強会を開催しているため参加できる。介護支援専門員受験者にも、法人内のベテランが講義を開催し、出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修・懇親会や沿岸北ブロックのホーム長・小規模多機能ホーム管理者等の会議や研修・食事会に参加し、交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談・見学、訪問調査や申請時など、ご本人の意見を話しやすいよう、ゆっくりお伺いする時間を意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要な情報以外でもコミュニケーションに時間をかけ傾聴し、一緒に解決していく姿勢で、聞き出した要望等を職員で共有し、応えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用時の様子や情報を担当者から伺い、ご本人様・ご家族様とも確認し、ご本人様に合ったサービスの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業として洗濯たたみや皿吹き、調理の手伝いなど家事をして頂いている。		

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診対応して頂き、可能であれば行事にも参加して頂いている。ご本人を支えている関係づくりを意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域へドライブや買い物に出かけている。近所の方と会い、懐かしみながらコミュニケーションがとれる。	住んでいた家、地域を見に行ったり、部屋の写真を見せたり、また本人や近隣住民から情報を得るなどにより、利用者本人の歴史を大切にした支援に繋がるよう心掛けている。これまでは、利用者本人の教え子が面談に訪れるなど、知人の来訪が多く、笑顔の支援を基本とした事業所の姿勢が良い形で反映されていたが、現在は自粛していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できない事を出来る入居者様が率先して手伝う場面が多くみられる。会話も職員が橋渡しすることで共に楽しんで過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時、何かありましたらいつでもご相談ください。と伝えているため、相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1でコミュニケーションをとる時間を意識し、希望意向を把握している。困難な場合は、“その人らしさ”を考える。	これまでの本人の仕事や人生経験を思い出すようかつての職場を訪問するなど、基本的に利用者個々の状況に応じた支援を工夫し、本人の意向を整理するソフトの活用など、利用者本人の意向の把握と職員間の情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前のサービス事業所の職員、近所の方など関係者にお伺いし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なじみの生活をそのままに、有する力の把握し、やりたいことなどその時訴えたことやできて喜んだ状況など細かく共有している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員の評価をカンファレンスで全職員ケアプランを見直している。ご家族には電話や、直接ホームにきて頂き、近況やケアプランの説明をしている。	食事・風呂・トイレの支援をはじめ、本人の「思い」を担当職員が日々把握し、毎月全員参加のカンファレンスで話し合いのうえ、ケアプランの評価・変更を行っている。ケアプランを見直す時点で家族に説明し同意を得て、3か月ごとにケアマネージャーを中心に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやほのぼのソフトを活用し、職員は出勤時、退社時は必ず見る・記録するようにしている。また、月に1回業務会議で実践結果を報告し合い、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、他事業所に相談や情報収集し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館行事やなじみの病院で知人・友人に会うことも多い。ホーム行事に地域の方を呼んだり、実習生を受け入れ交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続している方が多い。ご家族に同行して頂き、ご本人様の状態を共有している。急変時など訪問看護より状態確認・指示がある。	利用者のかかりつけ医への思いが強く、入居後も継続受診が多い。定期受診は家族同行が多く、緊急受診時は職員のみ同行する場合もある。個人手帳、申し送りノート、通院録等に記載されている受診時の医師からの指導内容などは、職員相互に共有している。	医療機関受診時の家族・職員等との情報共有、記録整理、その他場面での記録作業の時間短縮を図るうえで、タブレット等のOA機器の増設も一つの方策とし、業務の効率化について話し合われることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、火曜日の定期訪問のほか、緊急時24時間対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、介護サマリーを作成し、病棟の担当看護師に直接渡し、口頭でも伝えている。退院時は、病院の医療連携室と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在訪問診療の確保ができず、看取りの実績はない。ホームの中で出来る限りの支援をしていくが、今後想定されることなど事例を交え話し、意向を確認している。今後ホームの生活に不安がある場合、状況に合ったサービスの申請を勧める事もある、	「看取り指針」を作成し、研修を行いながら、職員間で共通認識を持つようにしている。常勤医師の確保、訪問診療の確保の状況を見極めながら、系列の介護老人保健施設との連携面も踏まえ、重度化した利用者の緩和ケアや看取り対応も念頭に置いてはいるが、医療の支援の現況もあり看取りの実施には至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつでも誰でも見れる所にマニュアルを配置。また、救命救急講習には職員全員が参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中・夜間を想定し、消防訓練を実施。同日に、避難経路の整備やライフラインが遮断に備え、備品などの点検・確認をしている。	災害関連の区域指定や福祉避難所としての指定は無い。避難訓練は年2回の実施としている。特に火災の場合は、感知した時点で職員全員と近隣5軒に自動電話通報するシステムを有している。自治会との関係は、書面で相互確認まではしていないが、事業所の「おたより」等での協力を要請している。食品や発電・暖房器具等の一定の備蓄を行っている。	近年、夜間時を含め想定外の災害も発生しているため、公的避難所の場所や避難経路の確認を行い、これ等の状況を踏まえた避難訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人で過ごしたいときは個室で過ごしたり、玄関で日光浴をしている。相性が合う同士での食席を配慮している。声掛けは全職員が意識し、なじみの方言を交え、失礼のないよう配慮している。	看取り、認知症、接遇等の研修に参加し、その研修の内容を業務会議の場等で共有しながら、利用者を尊重した介護サービスの向上を目指している。利用者自身の名前の声掛けや入浴時のタオル掛け、異性職員対応時の意向確認等、利用者の意思決定やプライバシーに配慮した介護に努めている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム すまいる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別でコミュニケーションをとった際、さりげなく話した希望や思いなど職員間で共有し、ケアプランにも反映している。混乱しない程度に質問し、自己決定を促す。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や学習療法など、職員の都合で声を掛けることもあるが、個々の気持ちを尊重し、無理に行わない。声のかけ方や、対応次第で、入居者様の気持ちが変わることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、一人ひとり鏡の前へ誘導し、声掛けやヘアブラシなど手渡しすることで、髪を整え洗顔している。入浴前など着替えの際は衣類をご本人に聞きながら季節に合った服を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際、食べたいものを反映させ作っている。できる事を無理のない範囲で、一緒に準備・片付けしている。	職員全員が交代で調理を行い、菜園の野菜などの食材を活かし、栄養バランスも気遣っている。献立予定表を作成し、野菜切り等の手伝いから食事まで利用者と一緒に楽しんでいる。元旦、誕生会の行事食に加え、定期的にラーメンや地元海産物の外食を楽しむ機会を設けているが、コロナ禍のため今年は縮小している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を目標に献立を作っている。食事摂取量がわかるよう、毎食記録している。むせ込みがあり、水分をうまく摂取出来ない方用に、ゼリーを作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯専用歯ブラシや口腔ケアシートなど個々に合わせ、使用している。就寝前は義歯の洗浄に全員入れ歯洗浄剤で消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方でもタイミングや表情を逃さず、個々に合わせた声掛け誘導を行っている。オムツ使用し、座位が困難な方にも便意があれば、職員2名でトイレでの排泄を支援している。	自立者には声掛けをしないが、要介助者は食前を中心に定期的に誘導している。現在、9名のうち2名が自立しており、パットを6名、オムツを1名利用しているが、うち2名が夜間のみポータブルトイレを使用している。利用者の表情や態度を見ながら便意を確認し、支援している。入居時から自立を促しており、当初のオムツ利用から自らトイレに行くようになった利用者もある。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム すまいる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因として、水分不足・姿勢は正しいか、食事は偏っていないか常に意識し改善している。下剤で忠節している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最初に入りたい。ぬるめがいい。ゆっくり入りたい。等希望に沿っている。季節の楽しみでゆず湯や菖蒲湯も取り入れている。	基本は3日に1回、希望も加味して毎日の入浴や時間帯を調整して入浴していただいている。シャワー浴も行っているほか、利用者へタオル掛けを行ったり、ゆず湯、菖蒲湯、或いは曜日の変更など、利用者個々に沿った工夫もしている。また、入浴時に音楽をかけたり、歌を歌うなど、リラックスできるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間・起床時間等、目安はあるが、無理に押し付けず、ご本人の好きなように過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬がすぐ確認できるよう、ファイルしている。変更や調節が必要になった場合、申し送りノートで共有し、経過観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	海に行きたい。買い物に行きたい。等希望に沿って支援している。散髪もなじみの床屋でパーマをかけたいと希望されている方はご家族の協力もあり、出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅を見たい。亡き夫の墓参りがしたい。等希望に沿った支援をしている。また地域行事へ参加し、知人・友人と再会した。	日常の散歩や近隣への外出の際に声掛けし、職員も一緒に出掛けている。利用者の希望を聞き、当日の意向も確認しながら、臨機応変にドライブなどの外出支援を行っている。「船乗りだった人が海に行く」「父親の墓参りに行く」等、外出したい背景も考慮し利用者の安ど感にもつなげている。管理者は、極力利用者の意向、思いに添えるよう三密を避けながら支援したいとし、職員にも同様の対応に努めるよう働きかけている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理をしている方もあり、買い物の希望があれば付き添う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えは無いが、月に1度ホームでご家族へ、ご本人の写真を添付したお便りを発行する際、ご本人の訴えを代筆する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から自然の光が入り、ワンフロアで全体が見渡せる。台所も見えるため、調理中の匂いや音で食事への楽しみを味わう事が出来る。外では季節の野菜や花を育てており、一緒に世話したり、収穫している。	開放感のある天窓や談話できるソファの配置、桜・七夕の季節感ある飾りつけなど、共有スペースは利用者が居ながらにしてリラックスできるよう配慮されている。床暖房が整備され、面談者用のイス配置等の工夫も行われている。毎朝、職員が換気を行い、一人が掃除機、一人が次亜塩素酸ナトリウムによるモップかけ、さらにアルコールで手すりを拭くなど、丁寧な清掃・感染症対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性のいい方同士でTVの見えるソファに座ったり、独りで座ったりできるよう、3人掛けソファが3つ配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅でも使っていた寝具や、タンスを持ち込むこともある。ご家族の写真や自宅から持ってきた植木を自室で世話している方も。できるだけなじみのあるものを持参できるよう勧めている。	部屋には冷暖房・加湿器・洗面台・クローゼット・電動ベッド等、多面的に用意している。ラジオ・仏壇・植木鉢を持ち込み、孫の写真・カレンダー・行事の受賞メダルなど、利用者の私物で装飾している。職員が利用者の家や桜の木を撮影して渡し、利用者が居心地良さを感じるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居前の訪問時、在宅でのベッド配置等見学させて頂き、なれた生活を継続できるよう工夫している。貼り紙も必要最小限に入居者様の目線を意識している。		